

町田市の図書館評価

2023年度事業の評価結果

2025年2月

町田市立図書館

まえがき

1 町田市立図書館における図書館評価の取り組みについて

町田市では、2008年6月の図書館法改正を契機として、図書館評価に取り組んでいくこととしました。改正内容に、図書館自身はその運営状況を自己点検し、改善するとともに、関係者へ積極的に情報提供を行う内容が盛り込まれたためです。

2009年度から2013年度の5ヵ年を第1期の計画期間とし、5年間で到達すべき目標を設定しました。また、評価項目ごとに単年度の取組目標を毎年度設定し、その達成状況を自己評価しました。

2014年度から2018年度の第2期図書館評価は、2013年4月に策定した『図書館事業計画』を基に活動指標を選び、当該年度の実績と取組を記入しました。

2019年度から2023年度の第3期図書館評価は、図書館事業計画の後継計画である『町田市生涯学習推進計画2019－2023』の項目を評価対象とすることとしました。『町田市教育プラン』や、『効率的・効果的な図書館サービスのアクションプラン』ともリンクしているため、町田市の図書館が、この数年間で取り組みたい項目が具体的に示されていて、目標設定もされているためです。

外部評価については2009年度から町田市立図書館協議会（以下「図書館協議会」とする）に依頼しています。

図書館協議会による外部評価『町田市立図書館の図書館外部評価に関する報告』（以下「外部評価報告書」とする）は、この報告書の最後に掲載しました。個々の事業に対する外部評価は、「外部評価者のコメント」として各シートの該当箇所に記載されています。第3期図書館評価の最終年度となった今回の外部評価においても、図書館協議会の皆様には真摯に協議を行っていただきました。この場を借りて厚くお礼申し上げます。

2 図書館協議会からの提言について

先に記した外部評価報告書の中で、図書館に対して提言を4点いただきました。これらの提言を活かして今後の図書館運営に取り組んでまいります。

①図書館評価に関わる課題

町田市の図書館評価の実施方法を高く評価していただきありがとうございます。

次期図書館評価の外部評価においても、現場の図書館職員から事業の実施状況の説明などを行ってまいります。

②評価活動の課題

外部評価における十分な時間の確保と、新委員に対する事前の説明：

限られた協議時間の中でもご意見がいただけるよう、説明の方法や資料の準備等工夫していきたいと考えております。

アウトプット・アウトカムの指標化：

次期図書館評価や今後の各種計画・策定等において、事業目的に対し、より適切な指標を検討してまいります。

評価に対するフィードバック：

今後いただいた外部評価の内容を各担当で確認し、業務改善に活かしてまいります。

③各図書館の取組の見える化

次期図書館評価においては図書館各館にスポットを当てることを検討しております。年報『町田の図書館』や『課別・事業別行政評価シート』などにより、各図書館の状況を明らかにします。

④多面的な評価

他自治体との比較や経年的比較など、図書館経営において比較の視点は重要と考えております。今後、図書館評価における効果的な反映方法を検討してまいります。

3 むすびに

図書館評価は第3期5年目となり第3期が終了となりました。新型コロナウイルスの影響が薄まり、新たに始めた事業なども報告することができました。今後もより多くの方が本に親しめる環境を作り、市民に役立つ図書館、利用される図書館をめざして、さまざまな取組を行ってまいります。

今後とも町田市立図書館をよりよくするために、忌憚のないご意見を賜りますようお願い申し上げます。

2025年2月

町田市立図書館長
中嶋 真

目 次

■まえがき	3
-------	---

■評価項目

取組番号（『町田市生涯学習推進計画2019-2023』より）

2-3	子ども読書活動の推進	6
2-4	学校図書館との連携強化	8
2-5	生涯学習施設の利用促進	10
2-6	読書普及事業の充実	12
2-7	シニア世代向け事業の充実	14
2-8	障がい者サービスの充実	16
2-9	図書館資料による情報提供機会の充実	18
3-8	レファレンスサービスの充実	20
4-3	地域で活動するボランティアの養成・支援	22
4-7	図書館運営の地域協働化の促進	24
5-2	本と出会う場所の創出	26
5-5	図書館利用者の利便性の向上	28
5-6	地域資料の活用の推進	30
5-7	市民のニーズに合った図書館事業の実施	32

■町田市立図書館の図書館外部評価に関する報告（町田市立図書館協議会）	34
------------------------------------	----

■取組2-3 子ども読書活動の推進【◇】	図書館
----------------------	-----

事業概要	生涯にわたって主体的に読書をする習慣を身に付けることができるよう、子ども読書活動の推進に関する全市的な取組をまとめた「第四次町田市子ども読書活動推進計画（2020年度～2024年度）」を策定・推進します。特に、子どもの読書活動に合わせた図書資料の充実とともに、小学校英語の教科化などの動向を踏まえ、外国語の絵本・児童書等を重点的に整備します。				
これまでの取組	第三次町田市子ども読書活動推進計画（2015年度～2019年度）に基づき、庁内各部署で計32の取組を実施するとともに、計画の進捗管理を「子ども読書活動推進計画推進会議」を通じて行っています。				
活動指標	指標		現状値（2017年度）	目標値（2023年度）	
	①第四次町田市子ども読書活動推進計画の策定		第三次計画に基づく事業の実施	策定完了（2019年度）	
	②外国語の絵本・児童書の蔵書数		3,966冊	6,500冊	
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	第四次計画の策定	第四次計画に基づく事業の推進 推進会議を通じた事業の進捗確認の実施			
	外国語の絵本・児童書の計画的購入・活用 利用状況等の検証				利用状況等の検証
年度目標（指標①）	第四次計画の策定完了	事業の推進 進捗確認	事業の推進 進捗確認	事業の推進 進捗確認	事業の推進 進捗確認
年度目標（指標②）	4,500冊	5,000冊	5,500冊	6,000冊	6,500冊

<2023年度の事業実績>

達成状況（指標①）	B 目標を達成した
取組状況（指標①）	・2019年度に策定した「第四次町田市子ども読書活動推進計画」の事業を推進するため、2023年度は7月と1月の計2回、町田市子ども読書活動推進計画推進会議を開催し、結果を図書館ホームページに掲載しました。 ・2025年度からの「第五次町田市子ども読書活動推進計画」の策定に向けて、検討スケジュールや進捗状況等を会議に諮りました。
達成状況（指標②）	A 計画以上に目標を達成した
取組状況（指標②）	・外国語児童書の充実に向けてふるさと納税を活用したことにより外国語の絵本・児童書の蔵書数が約8,000冊となり、目標値を大きく上回りました。 ・英語図書の活用や英語多読の周知のため、英語多読講演会を2回開催した他に、保護者向け（親子で参加）英語絵本の読み聞かせ講演会を開催しました。親子11組の参加がありました。講座では、電子書籍「Read Along」や多読コーナーのPRを行いました。
課題	・2024年度中に第五次町田市子ども読書活動推進計画を策定する必要があります。また今後は、国の計画において求められている、デジタル社会への対応や子どもの視点（同世代の若者で行う取組や子ども・若者の意見の取入れなど）、多様な子どもたちの読書機会の確保が重要となります。 ・英語絵本の貸出が進むように、PRの検討が必要です。
今後の取組の方向性	・2024年度中の第五次町田市子ども読書活動推進計画の策定に向けて、国の計画において求められている点を踏まえながら、町田市子ども読書活動推進計画推進会議に諮っていきます。 ・英語絵本の貸出が進むように、PRを行います。

<外部評価>

外部評価者の コメント	【評価】 ・①「第四次町田市子ども読書活動推進計画」の策定、②外国語の絵本・児童書の蔵書数 このどちらも目標を達成しており良いと考えます。特に、②に関しては目標値を大きく上回っていることから、非常に良いと考えます。 ・②の主な取組である英語多読講演会は、全体的に満足度の高い講演内容となっていることや、多読本の大事なPRの場となっていることから評価します。今後もプログラムの内容を状況に合わせて検討しながら、ぜひ続けていってほしいと考えます。 ・「第四次町田市子ども読書活動推進計画」による事業実施の目標に達したことは評価できます。町田の子どもに「読書の楽しさ」が広がることをさらに期待します。 ・「えいこのまちだ」周知のため、各種の催しを行っていることは評価できます。 「子どもと一緒に英語絵本を読もう」の実施報告にあるように、開催にあたっては、更なる緻密な業務計画が必要であると考えます。 ・第五次では、目標値の低さが気になります。現状を鑑みた議論による結論ですが、目標に向けてたゆまぬ努力をさらに期待します。 【関連事項等提言】 ・課題にもありますが、②の英語多読講演会の開催によって、多読本の周知は広がっていますが、今後、ただ手に取るだけでなく実際に本の貸出につながるPRをするよう提案します。 ・ふるさと納税で購入した英語絵本がもっと利用されるようさらなる魅力の発信が必要です。 ・外国語資料の貸出数の推移についての資料があるとよいです。 ・絵本・児童書・書籍・資料などの計画的購入と提供は読書活動の中核です。計画以上に目標を達成した事は明らかですが、英語外の書籍つまり他言語による情報の提供や共有等も今後の課題だと考えます。 ・読書バリアフリーについて、よりしっかりと考え、様々な障がいのある人達や外国にルーツのある市民への読書支援が一層必要だと考えます。 ・DX対応について積極的に推進されていることが明らかですが、今後AIの発展に伴い、会話型AIであるChat GPTのより積極的な活用などが強く求められると考えます。その面で施設としてのWi-Fiの強化等が必須です。 ・子ども読書活動推進計画において、様々な障がいのある子どもたち（市民も含めて）の読書バリアフリーの推進と対応を一層図ることが必要です。 ・全体に読書活動の推進に前向きな点を評価しますが、「町田市教育プラン24－28」の主旨に沿って、より学校教育と社会教育の橋渡しを読書や読書活動を通して推進していくことを期待します。
------------------------	--

■取組2-4 学校図書館との連携強化【◇】	図書館
-----------------------	-----

事業概要	小・中学校の学校図書館への支援や子どもの読書活動を充実させるために、図書館から学校図書館への貸出のしくみを改善するなど、支援方法を見直して、学校図書館と図書館との連携を強化します。				
これまでの取組	さるびあ図書館を拠点に、「学校図書館支援貸出」（しらべ学習等に対応して、図書館が選書を行って提供する）により、小・中学校の学校図書館へ本を車で配本するサービスを行っています。また、学校図書指導員への研修に協力しています。				
活動指標	指標		現状値（2017年度）	目標値（2023年度）	
	①学校図書館支援貸出利用校数		35校	42校	
	②学校図書館支援貸出数		3,768冊	4,500冊	
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	学校図書館支援貸出の実施				
	新たな支援内容の検討	貸出方法等の改善 新たな支援の実施			支援内容の検証
年度目標（指標①）	35校	37校	39校	40校	42校
年度目標（指標②）	3,800冊	4,080冊	4,220冊	4,360冊	4,500冊

<2023年度の事業実績>

達成状況（指標①）	C おおむね目標を達成した
取組状況（指標①）	- 学校図書館支援貸出は23校に実施しました。 - 学校図書館支援貸出が利用しやすいように、「テーマ別貸出セット」として、「じどうしゃくらべ」や「伝統工芸」などのテーマで追加購入しました。 - 新たな学校図書館への支援方法として、電子書籍の利用IDを付与しました。これにより、市内のすべての公立小学校と中学校が電子書籍サービスを利用することが可能となりました。
達成状況（指標②）	C おおむね目標を達成した
取組状況（指標②）	- 学校図書館支援貸出の冊数は、2,188冊でした。 - 学校図書館への新たな支援方法として、2023年9月に市内すべての公立小・中学校の児童・生徒へ電子書籍サービスの利用ID付与を行いました。児童・生徒のIDから65,514点の貸出がありました。
課題	- 学校図書館と連携をしながら、学校図書館支援貸出の利用について改善を進めていく必要があります。 - 学校図書館において、電子書籍サービスなど学校図書館支援貸出以外のサービスについても利用しやすいように検討する必要があります。
今後の取組の方向性	- 引き続き、学校図書館支援貸出や学校図書指導員への研修協力などを通して学校図書館の連携を進めていきます。 - 電子書籍サービスについて、学校からの意見を反映できるように取り組んでいきます。

<外部評価>

外部評価者の コメント	【評価】・ ・学校図書館支援貸出が23校と、昨年ベースから3校減少という結果になりました。目標値として掲げている42校の約半数となっており、より積極的な周知活動を通して貸出校数を増加させていく必要があると考えます。テーマ別貸出セットは活用の際とても選びやすく良策だと思いますので、電子版等も含めラインナップの整備を進め、周知していくとよいと思います。 ・学校図書館への新たな支援方法として、全児童・生徒への電子書籍サービスの利用IDを付与したことはとても良かったと思います。その結果、65,514点の貸出があったことは、今後の電子書籍の学習利用の可能性が大いに広がったことを意味します。著作権や許諾の課題は多々あると思いますが、電子書籍の冊数をあらゆるジャンルで増やしていくことを学校現場として期待します。 ・学校図書館への支援貸出冊数は前年度比700冊弱減となりました。電子書籍の貸出冊数が伸びた反動もあると考えますが、紙媒体としてのメリットを学校現場に落とし込めていない現状が見られます。 【関連事項等提言】 ・各校に配置されている図書指導員への研修や周知活動を通して、あるいは学校に直接出向いて、出前授業や紙媒体に触れる機会を増やすようなイベント等を企画し実施していくようなことも、検討していく必要があると感じます。年度目標冊数の設定も、今後益々台頭してくる電子書籍版と合わせた貸出目標にしていくなど、柔軟に考えていく必要もあるかと思います。 ・電子書籍サービスの学校活用については確実に増えてきているので、今後も引き続き電子書籍数を増やし、学習活動での利活用に十分耐えうる書籍の質と量の確保をお願いしたいと考えます。
------------------------	---

■取組2-5 生涯学習施設の利用促進	文化財係・自由民権資料館・生涯学習センター・図書館・文学館
--------------------	-------------------------------

事業概要	より多くの市民に生涯学習施設を知ってもらい、幅広い世代の利用につながるよう、リーフレットやホームページ、SNSを利用した情報発信のほか、各施設の相互PRをはじめ、市内外の各機関と連携したPR活動を進めます。			
これまでの取組	リーフレットやホームページ、SNSを利用した情報発信を行っています。			
活動指標	指標	現状値（2017年度）	目標値（2023年度）	
	①連携して行うPR活動件数	4件	10件	
	②SNS発信数	219回	800回	
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	新たな連携先の検討・調整	新たな連携先とのPR活動の実施	検証	検証結果に基づくPR活動の見直しと実施
	SNSを利用した情報発信			
年度目標（指標①）	5件	6件	7件	8件
年度目標（指標②）	520回	610回	670回	720回
				800回

<2023年度の事業実績>

達成状況（指標①）	A 計画以上に目標を達成した
取組状況（指標①）	- 自由民権資料館で講座・講演会事業を市内各施設で22件実施したほか、生涯学習センター、文学館では庁内他部署や近隣大学・学校、民間団体との連携事業をそれぞれ35件、16件の合計73件実施し、施設の相互PRに努めました。 - 図書館では、移動図書館車が芹ヶ谷公園のイベントや保育園・幼稚園に出張し、図書館のPRを行いました。
達成状況（指標②）	A 計画以上に目標を達成した
取組状況（指標②）	X（旧：Twitter）による情報発信を自由民権資料館で124回、図書館で81回、文学館で821回、生涯学習センターで59回実施したほか、文学館ではInstagramによる情報発信も110回実施し、合計1,195回のSNSによる情報発信を行いました。 - 図書館では、Twitterのフォロワー数が毎年増加しており、2023年度には2022年度から88人増加し、1,564人になりました。 - 図書館主催事業の「ひとことPOPコンテスト」の中で、市内5ヶ所の書店にてご協力いただいた「シール投票」について、X（旧：Twitter）にて周知を行いました。複数の書店のSNSでも周知していただきました。
課題	- 幅広い利用者層を開拓するため、施設の実施する講座の内容や実施方法を検討する必要があります。 - それぞれのメディアの特徴を理解し、効果的な活用方法を研究する必要があります。
今後の取組の方向性	- 施設を知ってもらうため、アウトリーチ事業の充実や動画などのデジタルコンテンツの作成に取り組みます。 - ホームページやX（旧：Twitter）などのSNSで情報発信を積極的に行うとともに、SNSとHPの連動やX（旧：Twitter）以外のSNSの活用など、情報発信の方法を検討していきます。 - 施設への関心をつなぎとめられるよう、継続的に提供している情報の充実を図ります。

<外部評価>

外部評価者の コメント	【評価】 ・計画以上に目標を達成しており、特に市内の書店との連携は高く評価できます。 ・②に関して、フォロワー数は増加しており、力を入れて取り組んでいたことは伺えますが、40万という市民の数を考えると、今後どのように閲覧数、フォロワー数を増やしていくのか工夫が求められると思います。 【関連事項提言等】 ・X（旧Twitter）だけでなく、Instagramを使うといったことも考え、メディアの特徴を捉え、定めたターゲットに合う方法、見たくなる仕掛けを作り、情報発信を行っていく必要があると思います。 ・生涯学習施設の活動に関しては、様々な人のネットワークの中で使われることが大切ですので、紙媒体やインターネットでの情報発信の機能を高める必要があると考えます。 ・今後も民間の力を借りる情報発信をもっと提案、実践していただきたいです。
------------------------	--

■取組2-6 読書普及事業の充実	図書館
------------------	-----

事業概要	インターネットやスマートフォンの普及により、読書量が減っていると言われていいます。小学生以下の子どもの読書のきっかけとなる事業や、中高生を対象とした図書館に足を運ぶきっかけとなるイベントを行うなど、18歳以下へ向けた取組を強化します。				
これまでの取組	小学1年生を対象に「としょかんいちねんせい*」を実施しました。小学校高学年、中学生、高校生を対象にPOP（本の紹介カード）を応募する「まちだライブ・ラリー」を実施しました。				
活動指標	指標		現状値（2017年度）	目標値（2023年度）	
	18歳以下の方の利用登録につながる事業数		2事業	4事業	
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	事業の実施・検討	3事業実施		4事業実施	
			事業内容の検証		事業内容の検証
年度目標	2事業	3事業	3事業	4事業	4事業

*としょかんいちねんせい：公立小学校の新1年生に引換券（兼・利用登録用紙）を配布し、図書館・文学館に引換券を持参した児童にカードケースを贈る事業。

<2023年度の事業実績>

達成状況	A 計画以上に目標を達成した
取組状況	以下の11事業を実施しました。 ①「としょかん1ねんせい」では、図書館に登録・更新した558名へミニプレゼントを渡しました。②5、6歳から小学校低学年を対象とした「読書手帳」を配布しました。③中央図書館で実施している中高生向けグループ学習室「わいわいキャレル」は230組563名の利用がありました。④「小学生向け講座～ちょっぴり図書館員になってみよう!」を実施し、10名の参加がありました。⑤YA世代*を対象に、一日図書館員を実施し、4日間で16名の参加がありました。⑥Yシネマ（10代向け映画会）を実施し、10代の参加は2名（総観客数は41名）でした。⑦中高生向け回遊型謎解きイベント「まちクエ2023*」を8月に実施し、50名の参加がありました。⑧MSP（町田創造プロジェクト）とのコラボイベント「飛んで火にいる夏のボードゲームin中央図書館」を行い、13名の参加がありました。また、引き続き若者参画を進めるため、若者の図書館ボランティアとして「図書館プランナー」の募集をし、14名が登録しました。⑨「ひとことPOPコンテスト2023」を実施しました。書店・地域文庫に周知や投票の協力をお願いし、新たに書店2店舗の協力を得られ計5店舗に協力していただきました。応募総数は324名となり、最優秀賞1名、優秀賞1名、図書館協議会賞1名、図書館長特別賞1名が選ばれました。入賞作品はしおりにして市内各所に配布しました。⑩保護者向け（親子で参加）英語絵本の読み聞かせ講演会を開催し、親子11組の参加がありました。講座では、電子書籍「Read Along」や多読コーナーのPRを行いました。⑪文学館では、小学生から高校生までを対象に「ことばらんどショートショートコンクール」を開催し、1002点の応募がありました。
課題	・「図書館プランナー」を中心に、中高生世代が読書や図書館に興味を持ってもらえるようなイベント等を検討していく必要があります。
今後の取組の方向性	・読書や図書館に興味を持つきっかけになるよう、若者の参画を支援・推進していきます。 ・各事業の内容を見直しながら、継続した取り組みを実施します。

*YA世代：ヤングアダルト世代の略で、中学生から大学生ぐらいの年齢層を想定。

*まちクエ2023：まちだクエストの略。謎解きゲームを通じ図書館内を巡ることで、図書館の基本的な構造や、本を借りるだけではない図書館の便利な使い方を体感してもらうイベント。

<外部評価>

外部評価者の コメント	【評価】 ・年代別に様々な個性的プログラムを用意して図書館に足を運ばせ、読書普及を促進する仕掛け等の工夫が見られます。昨年度に引き続き11事業を実施するなど実績は高く評価できます。 ・「としょかんいちねんせい」の登録・更新が増加し、「ことばらんどショートショートコンクール」はついに応募点数が1,000点を超えました。また「ひとことPOPコンテスト」は前年度の3.6倍の応募数があり、参加書店が増えるなど官民連携して読書普及に向けての取組がなされており、高く評価できます。これらの事業もすっかり定着した感があります。学校等に案内を継続するなど、更なる普及事業の促進を期待します。 ・YA世代に向けての取組も徐々に参加者が増えており、「図書館プランナー」、「MSP」とのコラボなど、昨年課題としていた「利用者、特に若者世代の意見を取り入れる」ことに取り組んだ成果と言えます。今後もイベントだけでなく、日常的に利用したくなる場所作り、PR方法についても、検討されることを期待します。 【関連事項提言等】 ・デジタルデバイスの使用が当たり前の若い世代へ向けて、紙の媒体である本の良さを実感してもらえるような取組を打ち出して欲しいです。 ・学校に行かない選択をしている子どもたちにも情報が届くよう、居場所機能のある活動団体との連携も視野に入れた検討を期待します。また、Dボックスのように特集展示等を行い、日中学校がやっている時間帯でも、当該子どもたちが利用しやすい環境づくりを期待します。
------------------------	---

■取組2-7 シニア世代向け事業の充実	図書館
---------------------	-----

事業概要	いつでもだれでも気軽に利用できるという図書館の強みを活かし、地域の図書館で認知症予防の講座を市民と協働して実施するなど、シニア世代が住み慣れた地域でいきいきと健康に暮らしていくための取組を行います。				
これまでの取組	未実施				
活動指標	指標		現状値（2017年度）	目標値（2023年度）	
	シニア世代を対象とした事業数		未実施	2事業	
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	実施検討	1事業実施		2事業実施	
			事業内容の検証		事業内容の検証
年度目標	実施検討	1事業	1事業	2事業	2事業

<2023年度の事業実績>

達成状況	A 計画以上に目標を達成した
取組状況	以下の5事業を実施しました。 ・まちだ探・探ゼミナールにおいて、「図書館活用講座」を中央図書館にて実施しました（生涯学習センターとの共催）。 ・中央、鶴川駅前、金森、木曽山崎、堺、忠生の各図書館及び移動図書館にて、シニア世代向け特集や認知症関連図書の特集展示等を行いました。 ・堺図書館で大人のためのおはなし会を実施しました。 ・デジタルデバйд解消事業として、はじめてのスマホ体験（8月、10月、12月）を実施し、49名の参加がありました。 ・スマートフォン・タブレット個別相談会（8月～3月）を実施し、134名の参加がありました。2022年度のスマートフォン・タブレット個別相談会は、利用率が全体で52%に留まっていたましたが、実際に相談会場にお越しいただいた方への次回以降の日程のご案内等、情報発信方法を変更した結果、67%に向上しました。
課題	・シニア世代向けの効果的な情報提供方法や事業内容を検討する必要があります。
今後の取組の方向性	・特集展示やイベントについて、継続して事業を実施します。

<外部評価>

外部評価者の コメント	【評価】 ・まちだ探・探ゼミナールの「図書館活用講座」は、満足度も高く、図書館に出向くだけでなく、高齢者が外に出て社会とつながるきっかけともなる良い取組です。職員間で課題と参加者のニーズの把握もなされているようなので、今後ぜひ活かしてください。一方、チューターや生涯学習センター職員及び講師の数が受講生数を大きく上回った結果は、需要や効率の点で再考が求められます。また、生涯学習センターとの共催にしたことは、情報共有の観点からも必要不可欠なことと考えられるので評価できます。 ・堺図書館でのおはなし会は、シニア世代から直接ニーズを聞けたり、職場体験の中学生との交流があるなど、良い企画です。各館で行うなど地域のシニア層の図書館利用促進に繋がる事業の開催も必要と思われるので、今後に期待しています。 ・特集展示により、関連本の貸出も増えているなど、効果が上がっていることを評価できます。認知症予防というテーマを取り上げたことも的を射ていると思います。今後も、ライフステージに応じた情報提供や講座の開催等の準備を期待しています。 ・高齢者のデジタルデバイドは、災害・非常事態の情報伝達が届かない、コミュニケーション不全による孤立など様々な問題が生じる懸念から、喫緊の課題です。その中で、図書館、生涯学習センター共に講習会やスマートフォン・タブレット個別相談会を開催（前年度比30名増）し、丁寧に対応されていて評価できます。さらに、講習会の最後には新刊本情報などのページを閲覧させるような構成にするなどの工夫もされるとよいと思います。 【関連提言事項】 ・認知症予防の取組に関しては、専門家の意見や認知症サポーターの活用を検討して、講座の充実を図って欲しいです。 ・シニア世代こそ、デジタルデバイスに慣れれば生活の質の向上につながると思います。個別相談会が中央図書館だけでは不十分です。長距離の移動が難しい方のために、各館での開催もぜひ検討することが必要です。と同時に、スマホ自体に苦手意識を持つ方へ向けて、必要性を周知する事業も検討してください。 ・2024年度は、図書館での個別相談会の実施予定はないとのことですが、アンケートからも満足度が高くニーズがある事業だと思われます。生涯学習センターを紹介するのではなく、2025年度はぜひ図書館で再開することを期待します。 ・シニアに直結する話題だけでなく、現代の社会情勢の理解など情報格差を補うような企画も検討してください。
------------------------	--

■取組2-8 障がい者サービスの充実	図書館
--------------------	-----

事業概要	通常の活字による読書が困難な人の学びのきっかけとなるよう、マルチメディアDAISY（デージー）*の貸出を拡充するなど、より対象者を広げた障がい者サービスを行います。				
これまでの取組	視覚障がいなどで活字を読むことが困難な人、寝たきりなどで図書館への来館が困難な人へのサービスを行っています。さらに、視野狭窄などにより読書が困難な人を対象に、リーディングトラッカー（読書補助具）の貸出を実施しています。				
活動指標	指標		現状値（2017年度）	目標値（2023年度）	
	通常の活字による読書が困難な人を対象とした事業数		1事業	3事業	
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	事業の実施・検討	2事業実施		3事業実施	
			事業内容の検証		事業内容の検証
年度目標	1事業	2事業	2事業	3事業	3事業

*マルチメディアDAISY（デージー）：音声と一緒に、文字や絵、写真などを見ることができるパソコンで読む本のこと。

<2023年度の事業実績>

達成状況	B 目標を達成した
取組状況	以下の3事業を実施しました。 ・マルチメディアDAISY上映会を行い、26名の参加がありました。図書館が所蔵する多様な資料のPRを行いました。若手教員育成研修で資料の紹介と、学校図書館支援貸出でも利用できることを案内しました。マルチメディアDAISY資料は8点増えて合計55点になり、読書が困難な人が楽しめる資料が充実しました。 ・音訳ボランティア経験者向けの技能向上講座を行い、10名の参加がありました。 ・リーディングトラッカーの貸出を行いました。 その他、デージー再生機器*貸出サービス実施検討のため、周辺自治体に対し調査を行いました。また、児童向け点字体験会を行い、25名の参加がありました。
課題	・読書バリアフリーに関するPR活動を効果的に実施する必要があります。 ・ボランティアの担い手が減少しているため、今後の持続的なサービス提供体制について検討する必要があります。
今後の取組の方向性	・ボランティアとの協力体制を維持し、技能向上の支援を行います。 ・デージー再生機だけでなく、様々な読書支援機器について情報収集を行います。

*デージー再生機器：目が見えない方や本を読むことが難しい方のための「音の本」であるDAISY（デージー）図書を再生できる専用の機器で、簡単な操作で聞くことができる。

<外部評価>

外部評価者の コメント	【評価】 ・「マルチメディアDAISY上映会」については、前年度よりやや参加者が減っていますが、募集方法、内容については大変よく振り返りと検討がなされているので、次年度へのブラッシュアップが期待できます。「夏休み子どもフェア」は市内小学生全員配布であり、そこに掲載したことは大きな効果が期待できます。しかし、功を奏しなかったのは、内容に課題があるのか、それ以前に効果を周知するために日常的に利用者に伝わるようなPR方法、告知する場合の見直しが必要だったのか等の、更なる検討を期待します。 ・マルチメディアDAISY資料が増えたり、周辺自治体への調査など多くの方に利用してもらえるような取組がなされていることは評価できます。 ・音訳ボランティア講座は、事前に質問事項を募り、具体的な技術向上が期待できる内容で、次回を期待する声が出るなど受講者の満足度も高く、評価できます。ぜひ、今後も継続してください。 ・「点字でなまえをうってみよう」は、子どもが対象の講座であり、視覚障がい当事者とのふれあいもあり、あたたかな時間であったことは、インクルーシブ社会を目指すうえで必要な取組と評価できます。 ・事業の目標は達成しており評価できますが、障がい者向けのサービスが充実したと言えるのかは不明であると考えます。 【関連提言事項】 ・障がい者サービスの充実を図るためには、障害をお持ちの方の生の声を聞く機会があることが必要と思います。図書館主催の勉強会等を通じて理解を深めて的確なニーズの把握を行って欲しいです。 ・精神、発達障害の方へのサービスの視点が欠けているので検討が必要です。紙媒体の本だけでなく、口に入れても安心な素材、破れにくい布絵本なども検討してください。（ボランティアで作製してくれる方を募集する等） ・発達支援学級や発達支援センター、放課後等デイサービス、関連施設へ出向いての上映会等も検討してください。
------------------------	---

■取組2-9 図書館資料による情報提供機会の充実	図書館
--------------------------	-----

事業概要	町田市の施策や町田市の魅力をより多くの市民にPRするために、図書資料の展示方法やPRを改善しながら、「本の特集コーナー」による情報提供機会の充実を図ります。				
これまでの取組	2015年度から町田市の施策をPRするための「本の特集コーナー」を市の各部署と連携して行っています。市の施策を市民に役立ててもらうとともに、図書館利用者を増やす取り組みのひとつとなっています。				
活動指標	指標		現状値（2017年度）		目標値（2023年度）
	他部署や他機関と連携した「本の特集コーナー」の実施数		19回		33回
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	改善点の洗い出し	改善案の実施	改善点の洗い出し	改善案の実施	改善点の洗い出し
年度目標	19回	26回	26回	33回	33回

<2023年度の事業実績>

達成状況	A 計画以上に目標を達成した
取組状況	- 各部署からの希望時期が重複した場合は地域館で展開できるよう調整を行い、他部署や他機関と連携した「本の特集コーナー」を87回実施しました（中央図書館28回、さるびあ図書館4回、鶴川図書館3回、金森図書館2回、堺図書館4回、鶴川駅前図書館44回、忠生図書館2回）。 - 特集コーナーの実施に当たり、担当課所管のHP・SNSでも周知を行いました。 - 申込書の改定を行った結果、スケジュールの調整が容易になり、今まで以上に特集の展開ができるようになりました。
課題	特集コーナーを設置できる箇所に限りがあることを勘案しながら、他部署や他機関が希望する時期と場所に極力実施できるよう、調整する必要があります。
今後の取組の方向性	他部署や他機関からの申し込みを最大限実現できるよう、今後も継続して取り組んでいきます。

<外部評価>

外部評価者の コメント	【評価】 ・「本の特集コーナー」は計画以上に目標を達成しており、評価することができます。資料提供という面で効果的な取組ですので、これからも継続して取り組むべき事業だと考えます。 ・図書館が情報発信施設として、市の他部署から認知されているという指標にもなっています。 【関連事項等提言】 ・情報提供機会の充実は必要と思われますが、「提供」という一方的な流れではなく、「情報の収集及びそれへのレスポンス」という双方向の活性化が必要になります。その意味で、特集コーナーへの市民の反応、他部署にとってどんな「効果」があったのかなどの実績も知りたいです。特集コーナーを設けたことで「どのように市民への貢献ができたか」こそが重要なのではないのでしょうか。 ・意見やアンケートなどは、2次元コードを用いることによって、気軽に投稿できる、使用者がどのように考えているかをダイレクトに受け取ることができるなど、より個別に応じた情報提供ができると考えます。 ・文学館、国際版画美術館など他施設との協働についても、いっそう積極的に取り組む必要があります。今後設置されるであろう様々な場所や施設を活用する機会も、図書館資料との関係の中で出てくると考えられます。協働に向け、効果的な手段を考え、継続的に取り組んでいってください。
------------------------	--

■取組3-8 レファレンスサービスの充実	図書館
----------------------	-----

事業概要	市民の調査・研究を援助するレファレンスは、市民一人一人の学びを深めることができる重要なサービスです。求める資料を見つけることができるように、レファレンスサービスの充実に向けて技術の向上を図ります。さらに、レファレンス事例の公開や、インターネット情報にアクセスできる環境を整備します。				
これまでの取組	レファレンス事例をデータ化し、インターネットで公開しました。基本的な資料を案内する「パスファインダー」を作成しました。調べ物に役立つ情報をまとめた「レファレンス通信」を発行しました。				
活動指標	指標		現状値（2017年度）	目標値（2023年度）	
	レファレンス事例の公開件数		162件	250件	
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	レファレンス事例の公開				
	レファレンス事例の点検と今後の改善方法の検討		レファレンス技術の向上のための改善プラン実施		事例の公開の振り返り
年度目標	190件	205件	220件	235件	250件

<2023年度の事業実績>

達成状況	B 目標を達成した
取組状況	- レファレンス事例をインターネットで25件公開し、公開件数は延べ304件になりました。 - 国立国会図書館が全国の図書館等と協同で構築している「レファレンス協同データベース」にレファレンス事例を25件公開しました。 - レファレンス事例や資料を紹介する「レファレンス通信」を2回発行しました。 - パスファインダー「まちだの自然」「法律情報」の改訂を行いました。 - 新たにレファレンスカウンターを担当できる職員の養成を行ったり、都立図書館等の研修に参加してスキルアップを行いました。
課題	- レファレンス事例については、利用者の調べ物に役立つよう、引き続き幅広い分野について公開していく必要があります。特に町田の地域資料に関する事例は問い合わせもあり、増やしていく必要があります。 - レファレンスサービスの認知度を上げる取組が必要です。 「パスファインダー」については、最新の情報を提供するため定期的に改訂する必要があります。 - レファレンスサービスの充実には、職員の技術力向上が欠かせず、人材育成が必要です。
今後の取組の方向性	- 引き続き、町田の地域資料を中心とした幅広い分野について、レファレンス事例を公開していきます。 「レファレンス講座」等のイベントや「レファレンス通信」等の発行を通じて、サービスの認知度が上がるような工夫を行います。 「パスファインダー」の改訂を行います。 - レファレンス技術向上のため、都立図書館等の研修に積極的に参加します。

<外部評価>

外部評価者の コメント	【評価】 ・レファレンスはICT全盛の時代においても利用者と図書館をつなぐ重要な役割があります。パスファインダーは昨年度の課題を受け、地域資料の充実を図り2つの改訂を行ったのは評価できます。しかし、さらなる認知度アップの取組充実が必要なほか、このような目的意識をもった人を助けるツールの充実だけでなく、図書館初心者も茫然とした相談や初歩的な質問をしやすい環境の充実も必要です。 ・レファレンスサービスは断片的な情報から欲しい情報にたどり着く等、担当職員の高度な技術が利用者と情報を結びつける図書館の大切な機能です。担当職員の養成、技術向上の研修への参加を高く評価し、更なるスキルアップを期待します。また、学校図書館とも連携して、図書指導員のレファレンス能力アップを支援する取組もあるとありがたいと考えます。 ・公開件数が目標値を上回り、研修に参加しスキルアップを図ったこと、取組が継続していることは評価できます。が、前年度と同じような評価しかできません。なぜなら、それが増えた程度で、取組はほとんど同じです。課題も全く一緒です。地道な積み重ねが必要なことは理解できますが、「課題に対し、今後の取組の方向性が示され、次年度に向けてどのような改善がなされたのか」を前提に評価を行うからです。現状維持が目標ならば、課題、今後の取組にそう表記するべきです。 ・前年度と同じ評価となりますが、昨今、ICTがどの家庭でも標準装備となり、レファレンスサービスの受付件数が減ることが余儀なくされている中、目標値を越えたことは評価できます。レファレンス通信にも興味深い事例が掲載されていて面白いです。しかし、年2回の発行や地域館各館や生涯学習センター等の庁内関係課、市内の高等学校への送付のみで、部数は1回あたり300部とはあまりにも少なく、効果的ではないと感じます。対策を検討してください。 【関連事項等提言】 ・図書館の利用者で、レファレンスサービスの存在をまだ認識していない方も多いように思われます。インターネットの情報の信憑性が問われる時代において、図書館のレファレンスサービスは大きな役割を果たしていける可能性があると感じます。より多くの方が活用出来るように、サービスの告知について発信して欲しいです。
------------------------	--

■取組4-3 地域で活動するボランティアの養成・支援【◇】	図書館
-------------------------------	-----

事業概要	おはなし会などの本にかかわる活動がより活発に行われるよう、地域や学校で活動するボランティアを養成するとともに、ボランティアが行うおはなし会の開催を支援します。				
これまでの取組	各図書館でのおはなし会については、ボランティア入門講座を行っておはなし会の担い手を育成し、職員とボランティアが協力して、おはなし会を実施しています。				
活動指標	指標		現状値（2017年度）	目標値（2023年度）	
	①地域で活動するボランティア向け講座の開催回数		1回	3回	
	②地域で活動するボランティア向け講座への参加者数		26人	90人	
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	ボランティア向け講座の実施、内容の検証・改善				
	新たな支援方法の検討		新たな支援の実施		
年度目標（指標①）	1回	1回	2回	2回	3回
年度目標（指標②）	30人	30人	60人	60人	90人

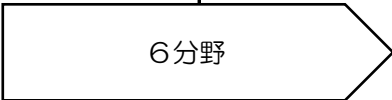
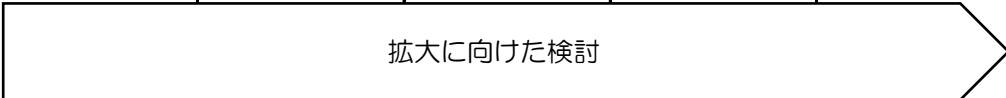
<2023年度の事業実績>

達成状況（指標①）	C おおむね目標を達成した
取組状況（指標①）	読み聞かせ活動に関わる保護者やボランティアを対象とした絵本の読み聞かせ講座「基礎編」を3回、ボランティア養成講座を1回（全3回）開催しました。図書館ボランティアを対象とした研修を1回開催し、計5回開催しました。
達成状況（指標②）	C おおむね目標を達成した
取組状況（指標②）	読み聞かせ活動に関わる保護者やボランティアを対象とした絵本の読み聞かせ講座「基礎編」に29人、ボランティア養成講座に10人の受講生が全日程出席し受講終了しました。図書館ボランティアを対象とした研修に14人参加し、延べ73人の参加がありました。
課題	- 基礎編だけではなく実践編を行うなど、地域や学校で活動するボランティアのニーズをくみ取って、講座の計画を進める必要があります。 - 図書館ボランティアを養成するための講座は、これまでの「語り」、「乳幼児」といったカテゴリーに加えて、新たに「絵本」についての講座を検討する必要があります。 - 既存のボランティアの技術と意欲の向上に向けた定期的なフォローが必要になります。
今後の取組の方向性	- 活動のすそ野が広がるよう、ニーズに応じた講座内容や支援方法を検討します。 - 新たに絵本ボランティアの稼働に向けて養成講座をはじめとした事業を組み立てます。 - 既存のボランティアの方がこれまで以上に活躍できるように、おはなし会等の取り組みを進めます。

<外部評価>

外部評価者のコメント	【評価】 ・開催回数は目標値以上の達成ができていますが、参加者の数がやや伸びないことで、達成状況が前年度より低くなっています。しかし、アンケートも丁寧にまとめられ担当間での課題の確認もしっかりとなされており、参加者には高評価なこともあり、自己評価以上の努力を感じます。今後も集まりやすい時期や曜日がいつなのか、周知の方法が適切であったかなどを検証し、ボランティア養成や支援につながる活動の充実を期待します。 ・活動のすそ野を広げるとともに、各種団体の情報交換等のネットワークの構築とブラッシュアップには良い企画です。コロナ禍のような規制がないため、今後の更なる事業の展開を期待します。 【関連事項等提言】 ・取組4-7にも関連すると思いますが、何と言ってもボランティア人材の確保のための継続的な施策が重要だと思います。図書館で行っているボランティア活動を知らない人も多いと思います。SNSでの発信も含め、様々な告知を行いアピールする必要があると思います。おはなし会の語り手のスキルアップのために、普段の活動場所以外でのおはなし会の開催の機会を図書館でバックアップするのはどうでしょうか。
-------------------	--

■取組4-7 図書館運営の地域協働化の促進	図書館
-----------------------	-----

事業概要	市民の学習を支える図書館活動を市民参画・協働でこれまで以上に進めることができるよう、図書館で活躍するボランティアの活動分野を拡げていきます。				
これまでの取組	児童サービスの「おはなし会ボランティア」、障がい者サービスの「宅配ボランティア」・「音訳ボランティア」・「点訳ボランティア」・「対面朗読ボランティア」で市民ボランティアが活動しています。				
活動指標	指標			現状値（2017年度）	目標値（2023年度）
	ボランティア活動分野の拡大			5分野	7分野
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
					
					
年度目標	5分野	6分野	6分野	7分野	7分野

<2023年度の事業実績>

達成状況	C おおむね目標を達成した
取組状況	- 以下の6分野でボランティアの活動がありました。 ①おはなし会ボランティア（小学生・幼児向け：221回、乳幼児向け105回、英語おはなし会：12回開催） ②宅配ボランティア（宅配件数：341件） ③音訳ボランティア（音訳資料製作タイトル数：34点） ④点訳ボランティア（点訳資料製作タイトル数：14点） ⑤対面朗読ボランティア（対面朗読件数：350件） ⑥イベント企画ボランティア（イベント回数：1回） ・イベント企画ボランティアとして、YA世代の図書館利用促進を目的に、MSP（町田創造プロジェクト）と図書館のコラボイベント「飛んで火にいる夏のボドゲ in 中央図書館」を8月8日（火）に行い、13名の参加がありました。また、引続き若者参画を進めるため、若者の図書館ボランティアとして「図書館プランナー」の募集をし、14名が登録しました。イベントの実現に向け検討を行いました。
課題	「図書館プランナー」を中心に、イベントの検討を進めていく必要があります。
今後の取組の方向性	今後もイベントの企画・運営等の分野を「図書館プランナー」を中心に開拓し、読書や図書館に興味を持つきっかけになるように検討を進めていきます。

<外部評価>

外部評価者の コメント	【評価】 ・「絵本の読み聞かせ講座」「おはなしボランティア養成講座」、また学びなおしである「乳幼児ボランティア向け講座」などを盛んに行っていることは高く評価できます。 ・障がい者サービスの「音訳実務者向け中級講座」も実施報告からは充実が感じられ、町田市立図書館ならではのレベルの高さが示されています。 ・概ね目標を達成した根拠として、件数やタイトル数が書かれていますが、実際に参加した人数や関わった人数等の具体的な数値が出ていないのが残念です。具体的に、何人ぐらいがどこで活躍したり活動したりしているのかを一覧にしたり、地域に公開するなどの取組が必要と思われます。地域協働化の促進へつなげる取組ですから、状況に合わせて検討をし、これからも地道に継続してほしいと思います。 【関連事項等提言】 ・「図書館プランナー」を中心としたイベント企画をほかにも行っても良いのではないのでしょうか。この制度は面白い企画だと思いますが、これは無償の手弁当作業なのではないでしょうか。せめて交通費程度あるいは東京都の最低賃金程度の謝金があっても良いのではないかと思います。 ・障がい者サービスの、ほかのボランティア養成あるいは強化講座はどのような長期計画で進められているのか、明示したほうが状況が分かりやすいのではないのでしょうか。また、宅配ボランティアについても件数しか書かれていませんが、もっと実態がわかる報告がほしいと思います。障がい者サービスは児童サービスと並んで図書館の根幹を支える重要な業務です。これからの事業の展開のためにも、状況の分かる資料を作成すべきと考えます。
------------------------	--

■取組5-2 本と出会う場所の創出【◇】	図書館
----------------------	-----

事業概要	町田市内には大学図書館や地域文庫、まちライブラリー*など本に触れることができる施設が各地域にあります。これらの施設と図書館が連携して読書活動を推進する取組を進めるとともに、これらの施設の情報を集約した読書マップを作成します。				
これまでの取組	市民が利用可能な大学図書館やおはなし会を実施している団体の情報を収集し、図書館ホームページに掲載しています。				
活動指標	指標	現状値（2017年度）	目標値（2023年度）		
	①読書活動推進にかかる連携施設数	20か所	25か所		
	②読書マップの作成	未実施	作成・公開（2020年度）		
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	図書の貸出・閲覧やおはなし会がある市民利用施設との連携推進				
	本に触れることができる施設の把握	マップの作成・公開		マップの更新	
年度目標（指標①）	21か所	22か所	23か所	24か所	25か所
年度目標（指標②）	施設の把握	作成・公開	検証	更新	検証

*まちライブラリー：『生涯学習推進計画2019-2023』47ページのコラム「まちライブラリーとは？」を参照。

<2023年度の事業実績>

達成状況（指標①）	C おおむね目標を達成した
取組状況（指標①）	・読書活動推進にかかる連携について、関係団体と協力してイベントを実施したほか、移動図書館のイベント会場や保育園・幼稚園などへの出張運行により本と出会う機会を創出することができたため、達成状況をCとしました。 ・「読書活動推進にかかる連携施設数」は増減がありませんでした。 ・読書活動を推進している連携施設や読書普及活動に取り組んでいる個人や団体と協力し、市民が本と気軽に触れ合えるイベントを開催しました。2023年9月30日、10月1日に開催された「2023鶴川団地秋まつり」において、図書コミュニティ施設運営団体設立準備会（2025年度に鶴川図書館が民設民営の施設へ転換予定）とともにイベントを実施しました。 ・イベント会場や保育園・幼稚園など子どもの集まる場所7ヶ所へ、移動図書館を計56回出張運行し、資料の貸出・閲覧やおはなし会を行いました。日頃図書館を利用していない方も含め、本と出会う場所を創出しました。
達成状況（指標②）	C おおむね目標を達成した
取組状況（指標②）	・読書マップについて、さらに内容の充実を図るため、今後のあり方について検討しました。
課題	・「読書活動推進にかかる連携施設数」については、現在の連携施設との関係性を深めることに加えて、連携施設をさらに拡充していく必要があります。
今後の取組の方向性	・読書活動を推進している連携施設や読書普及活動に取り組んでいる個人や団体と協力したイベントを、今後も継続します。 ・地域では様々な読書普及活動をしている団体や施設があるため、市立図書館と連携して読書普及活動を進められるよう取り組みます。

<外部評価>

外部評価者の コメント	【評価】 ・図書館の役割として、市民に対する本と出会う場所の創出を積極的に進める事は大変重要なことです。目標を達成したというだけではなく、今後それをどのように推進するかという方向性がより明確にされると良いと思います。 ・移動図書館の出張は、貸出者数は少ないものの、来館者は全体で約1,600人となっており、移動図書館の意義を感じてもらうため、地道ながらもあるべき図書館の姿だと思います。これからも継続してほしいです。 ・「関係団体と協力してイベントを実施」とありますが、鶴川の設立準備会との1件しか報告がない上、これを「利用施設との連携」とするのはいかなものでしょうか。 【関連事項等提言】 ・読書マップに関して、読書に資する情報を市民に提供していくことが大切ですので、公共施設以外にも、町田市内の企業や法人と連携を図り、企業の取り扱っている領域や内容に関わる読書や資料提供を行い、それらを読書マップに取り入れるといったように、今以上に分かりやすく使いやすくしていく必要があると思います。同時にこれを見てもらうための工夫も必要だと考えます。 ・読書マップ以外にも、SNS等を上手く使い、より本と出会う場所を充実させていってほしいです。
------------------------	--

■取組5-5 図書館利用者の利便性の向上	図書館
----------------------	-----

事業概要	インターネットやスマートフォンの普及、書籍のデジタル化により市民の読書スタイルは多様化しています。図書館に来館しなくても市民が読書をする機会が増えるよう、電子書籍の導入を目指します。				
これまでの取組	未実施				
活動指標	指標		現状値（2017年度）	目標値（2023年度）	
	電子書籍サービスの導入		未実施	実施	
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	先進事例の研究調査・ 補助金の調査・ 民間活力手法導入検討		導入のための仕様作成と 実施に向けた準備		実施
年度目標	調査	検討	仕様作成	実施準備	実施

<2023年度の事業実績>

達成状況	A 計画以上に目標を達成した
取組状況	・2023年度も電子書籍サービスを継続して提供しました。2023年度末の蔵書数は18,763点、2023年度の貸出点数は104,297点でした。 ・教育広報紙「まちだの教育」への特集記事の掲載や、市民センターまつりでブース出店、飲食店などで名刺サイズ広告の配布、図書館で電子書籍サービスの使い方講座の実施など、電子書籍サービスの各種PRを実施しました。 ・毎月新刊資料案内および特集を組んで電子書籍コンテンツの紹介を行い、継続して利用いただけるよう工夫しました。 ・2023年9月から市内の公立小・中学校の児童・生徒全員に対し、電子書籍サービスIDを付与しました。
課題	・図書館サービスのひとつとして電子書籍サービスの認知度を上げる必要があります。 ・電子書籍コンテンツが紙の図書と比較して高額かつ点数が少ないため、継続して利用したいと思っていただくよう工夫する必要があります。
今後の取組の方向性	・引き続き様々な場面でPRを行うことで、電子書籍サービスを市民に広く周知します。 ・常に魅力的な蔵書構成にするような選書を行い、新刊案内や特集を定期的に公開することで、電子書籍サービスの利用を促進します。

<外部評価>

外部評価者の コメント	【評価】 ・東京都デジタルデバイド解消事業2年間の補助金を活用した蔵書数の拡大により、貸出点数増加への効果があったことを評価します。 ・市内の多様な場でのPR活動の工夫と実施は、市民のどの年齢層へも電子書籍を周知する機会として有用であったことを評価します。 ・取組2－4の事業と関連して、2023年9月から市内公立小・中学校のすべての児童・生徒へ電子書籍サービスIDを付与したことは、子どもたちの図書館利用への間口が広がり、読書活動推進へと繋がる可能性があることを高く評価します。 【関連事項提言等】 ・デジタル技術の急速な発展・普及は市民生活とは切り離せないものとなった現在、電子書籍は様々な理由から図書館を訪れることが困難な市民にとっても、「本と出会い」「本を楽しむ」機会を得られる貴重なコンテンツであると考えます。電子書籍の利便性を広く周知し活用を促すことは、「市民の声」を収集できることにも繋がると考え、今後も範囲を広げた積極的なPR活動の継続を期待します。 ・紙の書籍よりコスト高の電子書籍コンテンツの購入については、補助金終了後の購入計画を市の図書費の増額検討・要望と合わせ具体化を進めていく必要があると考えます。 ・町田市の子どもの不読率の結果も考慮しながら、電子書籍サービスID付与のみではなく、電子書籍の活用方法や楽しみ方の出張講座等のさらなる発展的な取組の実施を期待します。
------------------------	---

■取組5-6 地域資料の活用の推進	図書館
-------------------	-----

事業概要	現在、紙の媒体で管理されている地域資料は、地域活動を行っていく上で重要な資料です。これらを積極的に活用できるよう、これまで蓄積してきた地域資料のデジタルアーカイブ*化を進めます。				
これまでの取組	未実施				
活動指標	指標		現状値（2017年度）	目標値（2023年度）	
	地域資料のデジタルアーカイブ化の推進		未実施	実施	
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	地域資料活用のための計画作成	デジタル化対象資料の整理	イメージデータの作成		段階的な公開
年度目標	検討	整理	データ作成	データ作成	実施

*デジタルアーカイブ：電子図書館をはじめ、作品、文化財その他の情報をデジタル化して収集・保存・公開する活動や場の総称。

<2023年度の事業実績>

達成状況	C おおむね目標を達成した
取組状況	- 電子書籍サービスサイトで公開させるための手法を調査しました。 - 電子書籍サービスサイトにおいて、地域資料を1点公開しました。 - 本格的な導入に向け国の補助金「デジタル田園都市国家構想交付金」に応募し、内示を受けました。
課題	2024年度中の公開に向け、各種準備を進める必要があります。
今後の取組の方向性	2024年度中に電子書籍サービスサイトで公開できるよう各種準備を進めてまいります。

<外部評価>

外部評価者のコメント	【評価】 ・電子書籍サービスのためのシステムで提供されることにより、電子書籍と合わせて検索ができることは、評価できます。一方、地域資料のデジタル化は、町田市に関する情報を市外へ発信することにもつながるものであるため、市外からも容易に閲覧できることが期待されます。 ・段階的な導入とはいえ、コンテンツがきわめて少ないことは、改善していくべき点です。本格的な導入によって、コンテンツの充実が期待されます。 ・本格的な導入のための補助金を確保したことは、事業の実現、充実において重要であり、高く評価できます。 【関連事項提言等】 ・次のような工夫がなされることで、情報にアクセスしやすく、また、情報が活用されやすい仕組みが作られることを期待します。 ・他部局が公開するデジタル化資料も検索できるようにする。 ・学校での探究学習や各施設における講座等における活用を促す。 ・OPACから電子書籍システムに収載した地域資料へアクセスできるようにする。 ・市外からの閲覧にも対応する。 ・システムの維持とコンテンツの拡充のため、継続的な予算の確保を期待します。
-------------------	---

■取組5-7 市民のニーズに合った図書館事業の実施	図書館
---------------------------	-----

事業概要	図書館全館で利用者アンケート調査を実施し、図書館利用者のニーズを把握して、図書館サービスの改善に役立てます。				
これまでの取組	図書館全館での利用者アンケートを2009年度から3回実施しました。				
活動指標	指標		現状値（2017年度）	目標値（2023年度）	
	図書館利用者アンケートの実施		未実施	実施	
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	アンケート実施準備	アンケート実施と公表	事業の評価と改善		次期アンケート実施準備
年度目標	検討	実施	活用	活用	検討

<2023年度の事業実績>

達成状況	B 目標を達成した
取組状況	・指定管理者制度の効果を検証するために、図書館全館で利用者アンケートを実施しました。 ・これまでのアンケート調査で市民ニーズが高かった次のサービスを実施しました。 ①9月から市内小・中学校の児童・生徒に電子書籍サービスの利用IDを一斉付与しました。学校で使いやすい同時使用が可能なコンテンツなどを揃え、新たな読書機会の提供を行いました。 ②5月から久美堂本町田店での予約資料受渡しサービスを開始しました。
課題	・引き続き、指定管理者による運営状況の評価が必要です。 ・利用者アンケート結果から市民ニーズを検証し、図書館利用に結び付ける必要があります。 ・図書館利用者だけでなく、図書館を利用していない市民のニーズも把握する必要があります。
今後の取組の方向性	・指定管理者による運営の効果検証に基づき、今後の運営体制を検討します。 ・検証結果に基づき、図書館利用の拡大につながる事業展開を検討します。 ・紙ベースのアンケートだけでなく、QRコードからアクセスできるアンケートなど適切な方法を検討します。

<外部評価>

外部評価者の コメント	【評価】 ・利用者に対し、調査が順調に実施され、とりまとめられたこと、また、工程表よりも多くの調査が実施されたこと、そして、結果がウェブ上で報告されていることを高く評価します。これらの結果を活かし、他の取組項目の改善または充実がなされることを期待します。 ・調査の実施結果が、さらなるサービスの充実に結び付いている点も、高く評価します。 【関連事項提言等】 ・公開されている調査結果は、集計が中心となっていますが、データの有効活用、課題の発見と改善、調査協力者への説明責任の観点から、さらなる調査結果の分析と公表も検討してよいと考えます。また、どのような課題やニーズが読み取れるのか、まとめを示すことも有効であるといえます。 ・「課題」にあるとおり、図書館を利用していない人々（潜在利用者）への調査は、積極的に検討すべきであるといえます。
------------------------	---

2024 年 12 月 20 日

町田市立図書館長

中嶋 真 様

町田市立図書館協議会委員長

松本 直樹

町田市立図書館の図書館外部評価に関する報告

1 はじめに

町田市立図書館協議会は、2024 年 8 月 1 日付文書「2023 年度図書館評価の外部評価について(依頼)」に基づき、「町田市の図書館評価」の外部評価機関として、2023 年度の評価を実施しました。以下、その経過並びに評価結果を報告します。

2 外部評価の実施方法・スケジュール

『町田市生涯学習推進計画 2019－2023』事業実績(2023 年度分)における図書館所管分、全 14 項目について、外部評価を実施しました。

(1) 方法

- ① 評価は全ての委員で担当する
- ② 全取組項目を 3 グループに分け、グループごとに複数の委員で評価案を作成する
- ③ 全委員で全項目の評価案の確認を行い、外部評価を確定する

(2) スケジュール

2024 年 8 月 1 日	第 20 期第 6 回定例会で図書館外部評価の依頼を受ける 担当事業について説明を受け、評価案について検討 その後、8 月中に各自評価案を事務局に提出
2024 年 9 月 27 日	第 20 期第 7 回定例会で評価案の全体確認及びグループに分かれて意見交換 その後、10 月 22 日までに評価最終案を事務局に提出
2024 年 12 月 20 日	第 20 期第 8 回定例会で評価案と外部評価に関する報告の内容を最終確認及び提出

3 外部評価の結果

『町田市生涯学習推進計画 2019－2023』事業実績(2023 年度分)における図書館所管分、全 14 項目について評価を実施し【評価】と【関連事項提言等】を記載しました。

4 全体に関わる評価と提言

(1) 全体に関わる評価

図書館による取組実施及び評価は全体として課題の残るものでした。事業実績報告の「達成状況」を確認したところ、A は 7、B が 4、C が 8 で、D はありませんでした。2022 年度と比較して A と B が減少し C 評価が増えています。前年度の評価も顕著に優れたものではありませんでしたので、そのことを加味して評価すると、事業の取組状況は決してよいとはいえません。次年度以降は、PDCA サイクルが適切に機能する仕組み作りを求めたいと思います。

図書館予算については、近年、繰り返し増額を求めてきましたが、2024 年度の資料購入費(予算)は 47,823 千円であり、2023 年度とほぼ同額でした。資料購入費が長期的に低迷する中で、市民一人あたりの年間貸出点数(貸出密度)は 6.82 冊と回復の兆しが見えません。また、資料 1 冊あたりの年間貸出回数(蔵書回転率)は 2.52 であり、10 年前(2014 年)と比較して 74.6%と低迷しています。引き続き図書館として予算確保に向けた積極的な取組みを期待します。

(2) 外部評価実施全体に関わる提言

外部評価を実施した結果、全体に関わる事項として、以下を提言します。

1) 図書館評価に関わる課題

町田市の図書館評価の実施方法は、他自治体と比較しても、充実しています。特に、図書館協議会委員が図書館職員から詳しく事業の実施状況を聞いた上で、評価をしている点は、優れたものです。次期の図書館協議会でも現状の図書館評価の枠組みを維持発展させ、よりよい図書館作りの基礎としてもらいたいと考えます。

2) 評価活動の課題

これまでの評価においては、以下のような課題を指摘してきましたが、改善が十分ではない点も見られます。今後の評価の枠組みおよび外部評価のあり方を検討する際、これらの課題への対応を求めます。①外部評価における十分な時間の確保と、新委員に対する事前の説明：以前と比較して、図書館協議会の開催回数が減少し、また、議題が多くある中で、外部評価のための時間が十分とれず、図書館協議会委員間の議論がしっかり行われない状況があります。また、新委員は協議会委員就任直後に外部評価に携わることになるため戸惑うこ

とが多くあります。②アウトプット・アウトカムの指標化：目標としている指標の多くが経営資源のインプットに関わるものです。事業の目的との関係から適切なアウトプット、アウトカム指標を設定することが期待されます。③評価に対するフィードバック：PDCA サイクル、OODA ループにおいて「評価」は事業改善のために不可欠な要素です。このことについて、図書館側より積極的な取組みが行われてきましたが、今後も継続して業務改善に活かす仕組み作りを期待します。

3) 各図書館の取組の見える化

現在の図書館評価は、『町田市生涯学習推進計画 2019－2023』の事業実績に基づいて行っていますが、この枠組みでは、図書館ごとの取組状況については、必ずしも明確ではありません。したがって、各図書館における取組状況の見える化を提言します。現状、「課別・事業別行政評価シート」によって、各図書館の状況の一端を知ることができます。

こうした情報も評価の際、評価資料として提供することを望みます。また、この資料は、財務的な観点から効果性・効率性を中心に整理したものです。それは図書館が目標とするものとは必ずしも一致しません。PDCA サイクルの観点からは、各図書館の目標とその達成状況に関わる資料を作ることも考えられます。

4) 多面的な評価

図書館サービスのアウトプットは指定管理館を含めて以前と比較して低下しています。アウトプットの代表的指標である貸出点数は、2013 年度を 100 とした場合、2022 年度は 75.2%、そのうち指定管理館である鶴川駅前図書館は 64.4%です。近隣市では、それぞれ相模原市 76.3%、八王子市 81.4%、大和市 124.7%、横浜市 111.4%、多摩市 84.1%であり、いずれも町田市を上回っております（データは日本図書館協会『日本の図書館 統計と名簿』から）。

現状の評価は、図書館の全体的なパフォーマンスに関して、他自治体との比較や経年的比較は行われておりません。今後は、短期・長期、他自治体との比較等、多面的で総合的な評価も期待されます。

5. 結び

図書館協議会は、「2023 年度図書館評価」の外部評価機関として評価を行いました。今回は、現在の評価方法での最後の評価となります。上記に述べたような課題はあるとはいえ、これまで、図書館によりさまざまな改善も行われてきました。このことは大いに評価できます。今後も、市民のための図書館として、よりよい活動に結びつくよう、評価のあり方を改善していくことを期待します。

町田市の図書館評価

2023年度事業の評価結果

発 行 日 2025年2月

発行・編集 町田市立図書館

〒194-0013

町田市原町田3-2-9

電話 042-728-8220

刊行物番号 24-60

庁内印刷